

地盤工学会 関東支部 造成宅地の耐震対策に関する研究委員会（H24年度活動）  
第5回議事録（準備委員会含む第9回）

日時：平成24年4月18日（水）14：00～18：30

場所：公益社団法人地盤工学会地下会議室

出席者：安田委員長、太田先生、飯沢委員、内山委員、小川（和）委員、小川（鉄）委員、小西委員、小林委員、澤田委員、新坂委員、高田委員、手塚委員、橋本（隆）委員、山本委員、大林

資料：9-1 議事次第、議事録

9-2 WGリーダー会議事録

9-3 執筆内容案2、3章

9-4 執筆内容案 5章

9-5 執筆内容案 6章

9-6 執筆内容案 7-1章

9-7 執筆内容案 7-2章

9-8 執筆内容案 7-3章

9-9 新設・既設の戸建て住宅に対する液状化対策方法の種類と特徴

9-10 目次案

議事：

1. 委員長挨拶

・マンションなどの集合住宅での構内復旧なども課題となっているが、住民の合意形成も大きな問題となっている。

・国交省の液状化対策推進事業で一体化（道路・宅地）対策の検討をすすめている。数都市で実施にむけて動きつつあるので、本委員会成果も活用されるよう成果をあげていきたい。

2. 液状化対策ハンドブックの内容について

・ハンドブックの対象を自治体の実務者向けとするのであれば、液状化対策の必要、不要などの判断方法などを盛り込んだ方がよい。第三章あたりに盛り込む。

・宅地カルテの作成方法などはどうか？→国交省の性能表示制度などとも絡むので、今回のハンドブックからはとりあえず、外しておく。今後の検討課題のひとつとして考える。

・モデルとしている液状化層が10m程度と厚いが、久喜などはもっと薄い。いろいろなケースがあることに留意すべきである。

・液状化対策というよりも、建物の沈下対策である。タイトルは「戸建て住宅の液状化対策ハンドブック」ではなく「戸建て住宅の液状化対応に関する手引書」などとする。

3. 「新設・既設の戸建て住宅に対する液状化対策方法の種類と特徴」について個別議論

4. その他

4-1 浦安市建築指導課からの依頼

・当面の5月16日については安田委員長と橋本委員、大林で対応する予定。（5月16日は大林の代理で新坂委員にて対応、6月2日は安田委員長、山本委員、大林にて対応）

5. 次回予定

6月15日（金） 15:00～

以上